

教科（科目）	家庭科（子どもの発達と保育）	単位数	2	年次（系列）	2年次（生活文化）
使用教科書	「子どもの発達と保育」実教出版				
副教材等	実習材料費 2000円程度（検定受験料を含む）				
履修条件 資格・進路	3年次に「子ども文化」を履修する生徒は、必ず選択すること。 定員25名 保育技術検定（4級）（全員受験）				

1 学習目標

子どもの発達の特長や発達過程、保育に関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ①子どもの発達と保育に関する基礎・基本を習得するために、保育技術検定（4級）に挑戦し合格を目指します。
- ②将来保育士等の職種を希望している者は夏休み中に保育園を訪問し、実際に子ども達に接する体験学習を行います。
- ③誕生から幼児期までの発達の時期における特徴を学び、それに応じた適切な保育の重要性についての理解を目指します。

3 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	子どもの発達の特性	造形表現活動	知識・技術	・生涯発達における乳幼児期の意義 ・発達と環境 ・発達観・児童観の変遷	15	第1回考査 ・学習状況 プリント
5	子どもの発達の過程		知識・技術	・身体発育と運動機能の発達 ・認知機能の発達 ・情緒の発達		20
6	子どもの発達の過程		知識・技術	・身体発育と運動機能の発達 ・認知機能の発達 ・情緒の発達	20	
7	子どもの発達の過程	言語表現活動	関心・意欲 知識・技術	・人間関係の発達		20
9	子どもの発達の過程	保育園 インターンシップ	関心・意欲 知識・技術	・人間関係の発達	20	
10	子どもの生活	音楽・リズム表現活動	知識・技術	・乳幼児の生活の特徴と養護 ・生活習慣の形成 ・乳幼児の健康管理と事故防止		12
11	子どもの保育		知識・技術	・乳幼児の健康管理と事故防止	13	学年末考査 ・学習状況 プリント
12	子どもの福祉と子育て		知識	・保育の意義目標 ・保育の方法・環境		
1	子どもの福祉と子育て	看護技術活動	知識	・児童福祉 ・子育て支援	10	学年末考査 ・学習状況 プリント
2	子どもの福祉と子育て		知識	・児童福祉 ・子育て支援		
3	子どもの福祉と子育て		知識	・児童福祉 ・子育て支援	10	学年末考査 ・学習状況 プリント

4 課題・提出物等

- ・保育技術検定4級取得。
- ・レポートや作品等の提出。

5 評価規準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	子どもの発達の特長や発達過程などに関心をもち、積極的に取り組もうとしている。	子どもの発達や子育て支援などに課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫することができる。	乳幼児の発育・発達に応じた適切な保育などに関する技術を活用できる。	乳幼児の発育・発達に応じた適切な保育などを理解できる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストを行う。 ・観点別評価に従って行う。 ・授業に対する取り組み・出席状況・態度・提出物を評価に加える。 			

6 担当者からの一言

保育技術検定（4級）の受験を通して、子どもの発達と保育の基本に関する知識や技術を習得しましょう。

教科（科目）	家庭科（子ども文化）	単位数	2	年次（系列）	3年次（生活文化）
使用教科書	「子ども文化」実教出版				
副教材等	実習材料費 1000円程度（検定受験料を含む）				
履修条件 資格・進路	2年次に「子どもの発達と保育」を履修していること 保育技術検定（3級）（全員受験）			定員25名	

1 学習目標

子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得させ、子ども文化の充実を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 子ども文化や子ども観について学びます。
- ② 子どもの遊びや遊びの現状について学びます。
- ③ さまざまな表現活動について、実習や作品製作を通して学びます。

3 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	子ども文化	子ども文化とは	知識・技術	・子ども文化と歴史について学ぶ ・遊びの特徴や現状、遊具・玩具について学ぶ	8	定期考査
5	子どもと遊び	遊びの意義と発達		・造形教育の歴史について学ぶ	8	作品提出
6	子どもと表現活動	造形表現活動	作品制作	・子どもの表現活動のおもしろさを学ぶ	10	授業の取組
7		言語表現活動	実習	・紙芝居の演じ方について学ぶ ・保育技術検定（言語）	10	プリント
8						
9						
10	子どもと文学	言語表現活動	知識・技術	・素話、紙芝居、絵本の読み聞かせなどについて学ぶ	8	定期考査
11		造形表現活動	実習	・保育技術検定（造形）	8	作品提出
12	子どもの生活と文化	年中行事と伝承遊び	知識・技術	・年中行事や伝承あそびなどについて学ぶ	6	授業の取組
1				・子ども文化を支える施設や活動について学ぶ	4	プリント
2		造形表現活動	作品制作	・子どもの表現活動のおもしろさを学ぶ	8	

4 課題・提出物等

- ・作品提出
- ・実技テストあり

5 評価規準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	子ども文化について関心をもち、児童文化財や表現活動に積極的に取り組もうとしている。	子どもの遊びや表現活動について課題を見だし、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現することができる。	子どもの表現活動や児童文化活動に関する技術を活用できる。	子どもと遊び、表現活動、児童文化財に関する知識を身につけ、理解することができる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストを行う。 ・観点別評価に従って行う。 ・授業に対する取り組み・態度・提出物。 ・出席の状況 			

6 担当者からの一言

子どもは遊びの中で心身ともに成長していきます。作品の製作や実習を通して、子どもの表現活動に関する知識や技術を身につけ、子どもの年齢に応じた関わり方を学びましょう。

教科 (科目)	家庭科 (生活と福祉)	単位数	2	年次 (系列)	2年次 (生活文化)
使用教科書	「生活と福祉」実教出版				
副教材等	実習費 1000円 程度				
履修条件 資格・進路	3年次で「福祉とボランティア」を履修する生徒は、必ず選択すること。定員18名				

1 学習目標

高齢者の健康と生活、介護などに関する知識と技術を修得させ、高齢者の生活の質を高めるとともに、自立支援と福祉の充実に寄与する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ①主体的な学習態度、問題解決能力、コミュニケーション能力の向上を目指します。
- ②思いやりのある態度、丁寧な言葉遣いを心掛け、優しさを心と体で表現できることを目指します。
- ③夏季休業中には、高齢者福祉施設にてインターンシップを行い、職業観を育成します。

3 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	生活と福祉 高齢者の 自立生活 支援	福祉とは	関心・意欲 知識	・福祉のイメージを明らかにする。 (KJ法) 関連図の作成・発表 ・高齢者の特徴と介護を理解する。	10	授業への取り 組み
7		ベッドメイキング コミュニケーション 手浴	知識・技術	・ベッドメイキングの科学的根拠を理解し、実践できる。 ・コミュニケーションの方法を理解し、技術を身につける。	10	実技テスト ワークシート
8		高齢者福祉施設 実習	関心・意欲 知識・技術	・高齢者とふれあい、高齢者の理解を深める。	15	定期考査2
9		移動の介護	知識・技術	・介護される体験をし、介護される人の気持ちを理解する。	15	定期考査3
10	障がい者 理解	車いす介助 視覚・聴覚障がい 者体験	関心・知識 技術	・体験実習から、障がい者への理解を深め、介助技術を習得する。	10	授業への取り 組み
11		手話・点字	関心・知識 技術		10	定期考査4 ワークシート
1	高齢化の 現状と介 護	寝たきり体験 衣服着脱の介護	関心・知識 技術	・高齢化の現状と高齢者福祉制度を理解する。	15	実技テスト
3		食事の介護		・介護技術を習得するとともに、利用者の気持ちを理解する。	15	定期考査5

4 課題・提出物等

- ・実習記録やVTR視聴時に考えたことをレポートにまとめ、提出します。
- ・ベッドメイキングなどの実技テストを行います。
- ・夏季休業中には、高齢者福祉施設でインターンシップを実施し、レポートを提出します。

5 評価規準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	社会福祉に関心を持ち、生活と福祉、高齢者介護について探求しようとしている。	社会福祉、高齢者の介護について思考を深め、基礎的な知識と技術を基に適切に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	社会福祉、高齢者の介護に関する様々な資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。	社会福祉、高齢者の介護に必要な基礎的な知識を身につけ、社会福祉の意義、高齢者の介護について理解している。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価に従って行う。 ・授業に対する取り組み・態度・提出物。 ・出席の状況。 ・高齢者福祉施設でのインターンシップの取り組み。 			

6 担当者からの一言

講義形式やグループによる学習、グループによる実習 (実技) など、様々な形態の学習活動の他、高齢者福祉施設への実習を行います。介護の基本的な事柄の他に、高齢者や障がいのある方との適切な関わり方が身に付きます。さらに、社会福祉や人間に対する理解が深まり、人として生きていく上で欠かせないとされる福祉に関する教養が身につきます。君の頑張り、どのようにも伸びていく教科です。共に学んでいきましょう。

教科 (科目)	家庭科 (福祉とボランティア)	単位数	2	年次 (系列)	3年次 (生活文化)
使用教科書	「生活と福祉」実教出版				
副教材等	実習材料費 2000円程度				
履修条件 資格・進路	2年次に「生活と福祉」を履修していること				定員18名

1 学習目標

- ・福祉に関する基礎的な知識を習得させ、現代社会における福祉の意義や役割を理解させるとともに、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。
- ・ボランティア活動などを通じて地域住民や異世代との交流を深め、他者の気持ちを理解できるような思いやりの心を育成する。

2 指導の重点

- ①日常生活に社会福祉が深くかかわっていることについて理解し、身近なボランティア活動から広範囲にわたる活動まで、社会福祉活動全体がとらえられることを目指します。
- ②主体的な学習態度、問題解決能力、コミュニケーション能力の向上を目指します。
- ③障がい者理解を深め、共に生きる社会を目指す姿勢と人間や生命を尊ぶ姿勢を身につけます。

3 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	現代社会と社会福祉	車いす介助 (巻駅へ)	関心・意欲 態度	・社会福祉の理念について学習する。 ・障がいを体験し、バリアフリー社会の必要性を感じる。	10	授業への取り組み 定期考査1
6	障がいについて	視覚障がい者への歩行・食事介助			20	グループワークの状況 定期考査2
9	社会福祉の理念と意義	ボランティア調べ学習 ボランティア活動	思考・判断 表現・理解	・現代社会の課題や問題点について知り、さらに社会保障等の福祉制度等について学習する。 ・ボランティアの理解を深め、実践する力をつける。	5	ボランティア活動の取り組み 定期考査3
10	障がいの特性にあわせた援助	ボランティア活動 バリアフリー住宅模型制作 寝間着の交換 特別支援学校交流会 炊き出し実習	関心・意欲 思考・判断 表現・理解 知識・理解	・さまざまな障がいについて理解を深め、援助技術を習得する。 ・ノーマライゼーションの社会を理解する。	35	授業への取り組み グループワークの状況
1	ボランティアまとめ	ボランティア活動	関心・意欲 思考・判断 表現 技術・理解	・主体的な大量調理を体験し、災害時のボランティアを考える。 ・自らボランティアを計画・実施し、実践力を高める。		ボランティア活動の取り組み 定期考査5

4 課題・提出物等

- ・実習記録やVTR視聴時に考えたこと・ボランティア記録・特別支援学校との交流会などのレポートを提出します。

5 評価規準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	社会福祉に関心をもち、障がい者福祉とボランティアについて探求しようとしている。	障がい者福祉、ボランティアについて思考を深め、基礎的な知識と技術を基に適切に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	障がい者福祉、ボランティアに関する様々な資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。	障がい者福祉、ボランティアに必要な基礎的な知識を身につけ、障がい者への支援、ボランティアの意義について理解している。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価に従って行う。 ・授業に対する取り組み・態度・提出物。 ・出席の状況。 ・ボランティア活動についての主体性。 			

6 担当者からの一言

講義形式やグループによる学習、校外での活動など様々な形態の学習活動を行います。1年後には社会福祉の基本的な事柄が分かるようになり、社会福祉に関する望ましい見方や考え方ができるようになります。君の持っている優しさを今より、もっと上手に表現できるようになるでしょう。共に学んでいきましょう。

教科 (科目)	家庭科 (ファッション造形基礎)	単位数	4	年次 (系列)	2年次 (生活文化)
使用教科書	「ファッション造形基礎」実教出版				
副教材等	実習費 3000円程度 (検定受験料、4級用布、型紙、接着芯、ゴム代など) 作品製作用の布は各自で購入する。				
履修条件 資格・進路	2・3年次継続履修 (選択した生徒は、3年次も必ず履修しなければならない) 定員 20名 被服製作技術検定 (4・3級) (全員受験)				

1 学習目標

被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得させ、ファッション造形の基礎的な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 検定4級を受験することにより、手縫いやミシン縫いなどの基礎縫いの技術を身につけます。
- ② 小物の製作を通して生地扱い方を学び、ミシン縫いの技術の向上を目指します。
- ③ アウターパンツの製作を通して、下半身を覆う洋服製作の基礎的な知識と技術を学びます。
- ④ シャツ・ブラウスの製作を通して、上半身を覆う洋服製作の基礎的な知識と技術を学びます。

3 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	基礎縫い	検定4級用布	基礎縫い	・手縫い・ミシン縫いの基礎	18	定期考査 作品の提出
5	小物の製作	トートバッグ・ペンケース	基礎縫い	・小物製作の基礎	34	作品のできばえ 作品製作時の意欲・態度
7	洋服の製作	アウターパンツ	洋裁の基礎	・アウターパンツの製作	40	
12	洋服の製作	シャツ・ブラウス	洋裁の基礎	・シャツ・ブラウスの製作	38	定期考査 作品の提出 作品のできばえ
2	小物の製作	きんちゃく袋	洋裁の基礎	・きんちゃく袋の製作	10	作品製作時の意欲・態度

4 課題・提出物等

- ・毎時間の課題があります。授業時間で終わらなければ、放課後補習となります。
- ・定期的に作品を期日内に提出します。

5 評価規準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	ファッション造形に関心をもち、自分のイメージを表現しようとする意欲と態度を身につけてようとしている。	ファッション造形の過程において課題を見だし、創造的に思考を深め表現する能力を身につけてようとしている。	教科書やプリントを活用し、基礎縫いや洋服の製作に関する基礎的・基本的な技術を身につけてようとしている。	基礎縫いや洋服の製作に関する基礎的・基本的な知識を身につけてようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストを行う。 ・観点別評価に従って行う。 ・授業に対する取り組み・態度・提出物。 ・出席の状況 			

6 担当者からの一言

手縫いやミシン縫いの基礎技術を身につけて、楽しく作品を製作しましょう。上手に作りたいという気持ち大切です。一つひとつの作品を丁寧に作ることで技術が上達していきます。毎時間の課題が終わるように集中してがんばりましょう。

教科 (科目)	家庭科 (ファッション造形基礎)	単位数	4	年次 (系列)	3年次 (生活文化)
使用教科書	「ファッション造形基礎」実教出版 (2年次より 継続使用)				
副教材等	実習費 8000円程度 (生布代、芯地代、糸代などを含む)				
履修条件 資格・進路	2・3年次継続履修 (2年次に「ファッション造形基礎」を履修していること) 定員 20人				

1 学習目標

被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得させ、ファッション造形の基礎的な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 2年次で学んだ知識や技術を基に、用途やデザインを考えた洋服を製作します。
- ② 用途やデザインに応じた被服材料の選択と取り扱いを学びます。

3 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	立体構成	立体・平面構成	洋服あるいは和服などの製作	・構成の特徴やよさ、また、各自のアイデアをいかした作品作り	70	定期考査 作品の提出 作品のできばえ 作品の丁寧さ 作品製作時の意欲・態度
9	立体構成	立体・平面構成	洋服あるいは和服などの製作	・構成の特徴やよさ、また、各自のアイデアをいかした作品作り	70	定期考査 作品の提出 作品のできばえ 作品の丁寧さ 作品製作時の意欲・態度

4 課題・提出物等

- ・毎時間の課題があります。授業時間で終わらなければ、放課後補習となります。
- ・定期的に作品を期限内に提出します。

5 評価規準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	ファッション造形に関心をもち、被服に関する技術や知識の習得に主体的に取り組むと共に、実践的な態度を身につけようとしている。	ファッション造形の過程において、自分の課題を見出し、それについて適切に判断し、工夫する能力を身につけようとしている。	教科書や教員が用意したプリントを活用し、主体的に実習できる基礎的・基本的な技術を身につけようとしている。	ファッション造形の工程や一つ一つの作業の意味を理解し、被服生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストを行う。 ・観点別評価に従って行う。 ・授業に対する取り組み・態度・提出物及び出席状況。 ・出席の状況 			

6 担当者からの一言

毎時間の課題を、着実に行うことが大切です。時間内でできなければ、放課後補習となります。地道な作業を丁寧に行う根気強さが要求されます。

教科 (科目)	家庭科 (ファッション造形)	単位数	2	年次 (系列)	3年次 (生活文化)
使用教科書	「ファッション造形」実教出版				
副教材等	実習費 3000円 (ベルト芯や接着芯代などを含む) 作品製作用の布、糸などは各自で購入する。				
履修条件 資格・進路	2年次に「ファッション造形基礎」を履修していること 定員20名				

1 学習目標

ファッション造形基礎で学んだ被服に関する基礎的な知識と技術を応用して被服作品を製作する。作品製作の楽しさを知る。

2 指導の重点

- ①衣服の歴史や構成について学び、今日の衣服の成り立ちについての基礎的な知識と技術を習得します。
- ②被服を創造的に製作する能力と態度を身につけます。

3 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	衣服のデザイン	デザイン	意匠について	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩について ・文様・柄について ・えりの種類 ・そでの種類 ・スカートの種類 ・パンツの種類 ・ワンピースの種類 	1 4	定期考査
5					衣服史	衣服 (洋服・和服) の歴史
6	衣服製作	立体・平面構成	洋服あるいは和服などの製作	<ul style="list-style-type: none"> ・構成の特徴やよさ、また、各自のアイデアをいかした作品作り 	1 5	
9	衣服製作	立体・平面構成	洋服あるいは和服などの製作	<ul style="list-style-type: none"> ・構成の特徴やよさ、また、各自のアイデアをいかした作品作り 	3 5	作品の提出 作品のできばえ 作品の丁寧さ 作品製作時の意欲・態度

4 課題・提出物等

- ・毎時間の課題があります。授業時間で終わらなければ、放課後補習となります。
- ・定期的に作品を期日内に提出します。
- ・製作作品は授業発表会などで展示します。

5 評価規準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	被服製作に関心をもち、被服に関する技術や知識の習得に主体的に取り組むとともに、被服生活の充実向上を目指す意欲的態度と実践的な態度を身につけようとしている。	被服製作の過程において、自分の課題を見出し、それについて適切に判断し、工夫する能力を身につけようとしている。	教科書や教員が用意したプリントを活用し、主体的に実習できる基礎的・基本的な技術を身につけようとしている。	被服製作の工程や一つ一つの作業の意味を理解し、被服生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストを行う。 ・観点別評価に従って行う。 ・授業に対する取り組み・態度・提出物及び出席状況。 			

6 担当者からの一言

ファッション造形基礎の応用編になるので、自主的、意欲的に被服製作を行うことのできる人が選択します。ファッション造形基礎同様、時間内でできなければ放課後補習となります。

教科 (科目)	家庭科 (フードデザイン)	単位数	2	年次 (系列)	2年次 (生活文化)
使用教科書	「フードデザイン」実教出版				
副教材等	実習材料費 5000円程度 (うち検定4級受験料、調理カード代金を含む)				
履修条件 資格・進路	2・3年次継続履修 (選択した生徒は、3年次も必ず「フードデザイン」を履修すること) 定員20名 食物調理技術検定 (4級) (全員受験)				

1 学習目標

栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ①調理の基礎・基本を習得するためにも、食物調理技術検定 (4級) に挑戦し合格を目指します。
- ②食を取り巻く現状や食事の意義と役割、食の安全性、食と健康を取り上げ正しい知識をもち、家庭生活及び地域に貢献できる人材を育てます。
- ③食品・料理様式と献立をトータルに考えることが出来、食事のテーマにそって献立を設定し、テーブルコーディネートができることを目指します。
- ④和・洋・中の基本的な調理実習において調理技術の理解と向上を目指します。

3 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	調理の基本	1 調理の目的 2 食べ物のおいしさ 3 調理器具と調理操作	知識・技術	・切り方、食品の容量・重量、廃棄率、塩分計算、食品摂取量のめやす ・食物調理技術検定4級取得に向けての学習	10	プリント 実習状況
	フードデザイン実習	1 食品の選択と調理 2 料理様式とテーブルコーディネート	調理実習 知識・技術	第1回調理実習 第2回調理実習 第3回調理実習 第4回調理実習	20	調理実習の意欲・態度・技術 第2回考査 ・学習状況 プリント
9	食品の特徴	1 食品の特徴と性質	知識		4	
10	フードデザイン実習	1 食品の選択と調理 2 料理様式とテーブルコーディネート	調理実習 知識・技術	第5回調理実習 第6回調理実習 第7回調理実習 第8回調理実習 第9回調理実習 第10回調理実習	18 18	第3回考査 ・学習状況 プリント ・学習状況 プリント 学年末考査 ・学習状況 プリント
3			知識	・料理様式と献立 ・テーブルコーディネート		

4 課題・提出物等

- ・調理実習の実習記録の提出。
- ・食物調理技術検定4級取得。

5 評価規準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	食生活に関する諸問題に関心をもち、食育の推進に向けて、積極的に取り組むことができる。	食生活を総合的に捉えて計画・実践するために課題を見だし、思考を深めようとしている。食育の推進のため、創意工夫し表現することができる。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を活用することができる。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を理解できる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査を行う。 ・観点別評価に従って行う。 ・授業に対する取り組み・態度・提出物。 ・出席の状況。 			

6 担当者からの一言

食物調理技術検定4級の受験を通して、調理の基本に関する知識や技術を習得しましょう。

教科 (科目)	家庭科 (フードデザイン)	単位数	2	年次 (系列)	3年次 (生活文化)
使用教科書	「フードデザイン」実教出版 (2年次より 継続使用)				
副教材等	実習材料費 7000円程度 (検定受験料を含む)				
履修条件 資格・進路	2・3年次継続履修 (2年次に「フードデザイン (2年)」を履修した生徒は必ず選択すること) 定員 20名 食物調理技術検定 (3級) 全員受験				

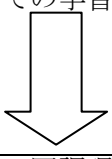
1 学習目標

栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ①調理の基礎・基本を習得するためにも、授業に食物調理技術検定 (3級) に挑戦し合格を目指します。
- ②食を取り巻く現状や食事の意義と役割、食の安全性、食と健康を取り上げ正しい知識をもち、家庭生活及び地域に貢献できる人材を育てます。
- ③栄養。食品・料理様式と献立をトータルに考えることが出来、食事のテーマにそって献立を設定し、テーブルコーディネートができることを目指します。
- ④和・洋・中の調理実習において調理技術の向上を目指します。

3 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	調理の基本	1 調理の目的 2 食べ物のおいしさ 3 調理器具と調理操作	知識・技術	・2年生次に学習した内容の復習 ・切り方、食品の容量・重量、廃棄率、塩分計算、食品摂取量のめやす ・食物調理技術検定3級	24	・学習状況 プリント 実習状況 第2回考査 ・学習状況 調理実習の意欲・態度・技術 ・プリント
	フードデザイン実習	1 食品の選択と調理 2 料理様式とテーブルコーディネート	調理実習 知識・技術	・第1回～3回調理実習 (春の献立) (洋食の献立) (弁当) ・料理様式と献立 ・テーブルコーディネート		
	栄養素のはたらきと食事計画	1 からだのしくみと食べ物 2 栄養素の役割 3 栄養素の種類とはたらき	知識	・調理実習で取り上げる食品・献立についての学習を深める 	6	
9	食品の特徴	1 食品の特徴と性質	知識		6	
10	フードデザイン実習	1 食品の選択と調理 2 料理様式とテーブルコーディネート	調理実習 知識・技術	・第4回～9回調理実習 (秋の献立) (中華料理) (クリスマス) (正月料理) (お祝い料理) ・料理様式と献立 ・テーブルコーディネート	18	第3回考査 ・学習状況 調理実習の意欲・態度・技術 第4回考査 ・学習状況 プリント
	栄養素のはたらきと食事計画	1 からだのしくみと食べ物 2 栄養素の役割 3 栄養素の種類と働き	知識	・調理実習で取り上げる食品・献立についての学習を深める		

4 課題・提出物等

- ・調理実習の実習記録の提出。・食物調理技術検定3級取得。

5 評価規準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	食生活に関する諸問題に関心をもち、食育の推進に向けて、積極的に取り組むことができる。	食生活を総合的に捉えて計画・実践するために課題を見だし、思考を深め、食育の推進に寄与するために、創意工夫し表現することができる。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を活用することができる。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を活用することができる。
評価方法	・観点別評価に従って行う		・授業に対する取り組み・態度・提出物 ・出席の状況	

6 担当者からの一言

食物調理技術検定3級の受験を通して、日常食の調理に関する知識や技術を習得しましょう。自分の腕を磨く良いチャンスです。

教科 (科目)	家庭科 (食文化)	単位数	2	年次 (系列)	3年次 (生活文化)
使用教科書	「食文化概論」調理師養成教育全書				
副教材等	実習材料費 5000円程度 (教科書代金を含む)				
履修条件 資格・進路	2年次に「フードデザイン」を履修していること 定員20名				

1 学習目標

食文化の成り立ち、日本と世界の食文化などに関する知識と技術を習得させ、食文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 年間を通じて調理実習があります。
- ② 世界の料理と食文化について学びます
- ③ 日本の食文化と郷土料理、行事食について学びます。

3 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法	
4	食と文化	食文化の成り立ち	知識・技術	・食文化とは何か	6	定期考査	
5		多様な食文化	調理実習	・自然環境と食文化	8	提出物	
6		食文化の共通化と国際化		・食の伝播と変容	8	学習状況	
7		日本の食文化		日本の食文化史	・日本の食文化史	8	
		現代の食環境		・食環境の変化の要因	8		
9	日本の食生活と食文化	・伝統料理と郷土料理		8			
10	世界の料理と食文化	日本料理の食文化	知識・技術	・日本料理様式	14	定期考査	
11		西洋料理の食文化	調理実習	・西洋料理の特徴	6	提出物	
12				中国料理の食文化	・中国料理の変遷		学習状況
1					その他の国の料理の食文化	・アジアの料理とは	4
2							

4 課題・提出物等

- ・調理実習の実習記録の提出。世界の食文化をテーマにポスターを制作し、提出。

5 評価規準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	日本や世界の食文化に関心を持ち、食文化の伝承や調理技術の向上に向けて、積極的に取り組もうとする意欲と態度を身につけようとしている。	食生活の変遷や国際化などについて、課題を見だし、食文化の伝承や創造に寄与するために、創意工夫し表現する能力を身につけようとしている。	栄養、食品、献立、テーブルコーディネートなどに関する技術を身につけようとしている。	栄養、食品、献立、テーブルコーディネートなどに関する知識を身につけようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストを行う。 ・観点別評価に従って行う。 ・授業に対する取り組み・態度・提出物。 ・出席の状況 			

6 担当者からの一言

調理実習などを通して世界の料理や食文化について学びます。世界各国の料理や新潟の郷土料理、行事食など、幅広い知識と技術を身につけましょう。

教科（科目）	家庭科（服飾手芸）	単位数	2	年次（系列）	3年次（生活文化）
使用教科書	刺しゅうの基礎 ・かぎ針あみの基礎 日本ヴォーク社				
副教材等	実習材料費 5000円程度				
履修条件 資格・進路					

1 学習目標

手芸の種類と変遷、各種手芸の技法等に関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に製作し、服飾及び日常生活に活用する能力と態度を育てます。

2 指導の重点

- ① 手芸、フランス刺しゅうとかぎ針編みの基礎を学びます。
- ② 作品製作は毎週課題があり、その都度作品を締め切り日までに着実に製作する事を目指します。
- ③ 応用の作品は、文化祭で展示します。自分の納得のいく作品に仕上げられるよう、丁寧な作業態度と、技術の向上を目指します。

3 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	手芸	フランス刺しゅうのテーブルセンター	刺しゅう	・フランス刺しゅうの基礎 ・テーブルセンターの製作	10 25	作品の提出 作品のできばえ 作品の丁寧さ 作品製作時の態度
11	手芸	かぎ針あみ	編み物	・編み物の基礎	10 25	作品の提出 作品のできばえ 作品の丁寧さ 作品製作時の態度
2						

4 課題・提出物等

・毎週課題を提出し、前期の応用作品は、文化祭または総学産社発表会で展示をします。

5 評価規準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
評価規準	手芸の種類と変遷、手芸の技法等に関心を持ち、手芸品を創造的に製作することを目指して、意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけようとしている。	手芸作品を創造的に製作する事を目指して思考を深め、学習した知識と技術を活用して、創意工夫する能力を身につけようとしている。	手芸の種類と変遷、各種手芸の技法などの関する技術を身につけ、それを活用して手芸品を創造的に作製することができる。	手芸の種類と変遷、各種手芸の技術などに関する知識を身につけ、それを服飾・日常生活に活用する意義を理解する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価に従って行う。 ・授業に対する取り組み・態度・提出物。 ・出席の状況 			

6 担当者からの一言

毎週の課題を、着実にすることが大切です。また作品の製作には、丁寧さと根気強さが必要です。時間をかけて作製する楽しさ、1つの作品を作り上げる完成の喜びがあります。

教科(科目)	家庭(課題研究)	単位数	2	年次(系列)	3年次(生活文化)
使用教科書	なし				
副教材等	必要に応じて購入				
履修条件 資格・進路	主系列を「生活文化系列」としている生徒であること。 研究内容による定員および科目の履修については下記のとおりとする。 ①食分野は定員を10名とし、「フードデザイン」と「食文化」の両方を履修していること ②衣分野は定員を10名とし、「ファッション造形基礎」と「ファッション造形」の両方を履修していること ③保育分野は定員を10名とし、「子どもの発達と保育」と「子ども文化」の両方を履修していること ④福祉分野は定員を10名とし、「生活と福祉」と「福祉とボランティア」の両方を履修していること				

1 学習目標

家庭・福祉に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識や技術を習得するとともに、問題解決の能力や創造力を育成する。

2 指導の重点

自発的に取り組めるように、進行状況に応じて課題の解決について助言を与える。
 課題例として、調査、研究、作品製作 など

3 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	オリエンテーション	各自で、必要に応じて、これまでに使用した教科書や資料などを用意する。	課題設定 目標設定	進路や興味・関心を考慮したうえで課題を考える。	6	授業への取り組みをその都度評価する。
5	学習年間計画作成		学習計画作成	年間計画を立てることにより、継続的な学習の取り組みを図る。	4	
6 7	目標達成に向けた学習			計画に基づき学習を進める。	30	
9 10	中間報告		目標及び計画の見直し	状況に応じて目標及び計画の見直しを行う。	20	
11 12 1	報告書 自己評価			目標、課題に対するアプローチを通して達成状況をまとめる。	10	

4 課題・提出物等

設定した課題、目標にもとづいて年間計画をたてて学習を行う。
 同じ目標をもつ者同士、教えあう、学びあう雰囲気をつくり、自主的、積極的に取り組むこと。

5 評価規準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	目標の設定をして、目標達成に向けた方法を工夫し、計画・実行・改善しようとする態度がみられる。	課題解決や目標達成に必要な情報の収集、計画の設定・改善および学習の工夫に関する思考や判断ができる。	課題解決や目標達成に必要な資料を活用し、課題を解決できる。	課題解決や目標達成に必要な知識を身につけるとともに、その内容を理解している。
評価方法	課題の達成状況、提出物、意欲・関心・態度、出席状況を総合的に判断し、能力・達成度を評価する。			

6 担当者からの一言

自ら取り組む目標を設定し計画を立てて学習しましょう。
 選択者の人数によっては、分野別に共通の課題について取り組む場合があります。